

高等教育におけるキリスト教教育

— 学生の意識調査から —

日 高 正 宏

「キリスト教教育」を考える時、「キリスト教主義教育」「キリスト教的教育」「キリスト教への教育」「キリスト教による教育」「キリスト教によって立つ教育」「キリスト教精神に基づく教育」「キリスト教学校」「キリスト教系学校」「キリスト教主義学校」「クリスチャンスクール」「ミッションスクール」など、多様な表現をされる内容を考え併せる必要がある。これらの表現についてはすでに多くの議論がなされている。これらの中で「ミッションスクール」という言葉だけは実態に合わなくなってきて、近年使われなくなっている。多くの表現のうち、教育に関してよく使われるのは「キリスト教教育」と「キリスト教主義教育」であろう。

小寺(1992)は、この二つの表現について、「私がこの二つの言葉の区別にこだわる背後には、実は、関西学院の最初の憲法の表現がかかわっているのである。この憲法は、関西学院の建学の精神をもっとも良く示している、と考えられる。この憲法の第二款『目的』には『本学院ノ目的ハ、基督教ノ伝道ニ従事セントスル者ヲ養成シ、且ツ基督教ノ主義ニ拠リテ日本青年ニ智徳兼備ノ教育ヲ授クルニアリ』と規定されている。英文では、

“The object of this Institution is the training of chosen men for the Christian Ministry, and the intellectual and religious culture of Japanese youth in accordance with the principles of Christianity”

となっている。この目的のために神学部 (Biblical department) と普通学部 (Academic department) がおかれたわけである。このように、関西学院は、創立の当初から、伝道者の養成を目的とするキリスト教教育と、キリスト教主

義により、一般のアカデミックな教育をすることが、基本的に目ざされていたのである」としている。小寺は「キリスト教教育」と「キリスト教主義教育」を区分して考えている。そして、キリスト教的経済学というものが有り得るかどうかについてにまで議論を広げ、これに関しては、有るとも言えないが、無いとも言えない、としている。アカデミックな教育を担う大学キリスト者の、ある意味では矛盾した立場にも言及している。¹⁾

関西学院の憲法は、キリスト教教育とキリスト教主義教育の両面の大切さを明確に示している。当時の時代的背景もあろう。伝道者養成は深い願いではあるが、広く開かれた教育、しかもキリスト教の立場に立つ教育もまた大切としたのである。

仲原(1992)は、小寺と異なり、「キリスト教教育は本質的には教会がキリスト者を形成する働きであり、キリスト教理論やキリスト教精神、またはキリスト教思想をもって教育目的とする学校で、実施されている教育をキリスト教主義教育であると定義した。」と述べ、教会教育と学校教育の働きの違いを考慮している。²⁾

松村(1958)は、「キリスト教への教育」は教会で行い、「キリスト教による教育」は学校で行うとし、「キリスト者と共同・協力の関係に歩まうとする人々を作り出すことは、キリスト教主義学校本来の目的の大部分を占めると言ってよい。何となれば、人々を信仰にまで導くということは教会の仕事であってキリスト教学校の仕事ではない筈である。」としている。³⁾

このように考えると、同じキリスト教によって建てられた学校であっても、①学校の中に、あるいは隣接して、同教派の、宗教法人としての教会がある場合。当然、洗礼・聖餐・礼拝式を行う。学校の礼拝に教会堂を借りる場合もあり、教会の礼拝に学校のチャペルを借りる場合もある。②本学のように、教派、教団からのチャプレンがいて、学校のチャペルで聖餐・礼拝式は行うが洗礼は行わない場合。宗教法人ではないので、教会員ももたない。礼拝のみで聖餐式は行われていない学校が多い。③学校のチャペルはあるが、礼拝のみで

洗礼・聖餐式は行わず、チャプレンではなく、学校に属する聖書科教員のみがいる場合。などが考えられる。その他、教育の範囲を広げて考えると、社会福祉法人、医療法人、財団法人などが学校を経営している場合や、宗教法人が神学校をもっている場合もある。キリスト教主義の保育所、幼稚園、養護施設なども宗教教育を担っているが、分類はさらに複雑になる。ここでは、学校、短大、大学の範囲に止める。

学校の礼拝に関して西垣(1992)は、「通常、キリスト教学校における礼拝には、洗礼式と聖餐式がなく、礼拝出席者にもクリスチャンは少ないけれども、教会であっても学校であっても礼拝は礼拝である」とした上で、「礼拝は教育そのものではないが、礼拝が全人格的な業であればあるほど、教育が果たし得ない人間の霊性を育てるといふ働きをする。学校の礼拝は、現在の教育の欠けたところを補う役割を果たしている」としている。⁴⁾

ユダヤ教のシナゴグなど、昔から多くの宗教が教育には力を入れてきた。そこには信者教育と聖職者養成の意味があった。仏教では寺自体が僧養成所を兼ねており、また本山は研修所や宗教学研究の意義ももっている。また各宗派は独自の学校や大学を持っている。多くの宗教の中で特にキリスト教は各国で、信者の人口比よりも多くの教育機関を設立している。

このように宗教と教育について考え、また「キリスト教教育」と「キリスト教主義教育」の区分から考えていくと、本学では、チャペルとチャプレンを擁するキリスト教センターが「キリスト教教育」を行い、全学がキリスト教の考え方を基本に持ちつつアカデミックな教育を担う「キリスト教主義教育」を行っている、と定義できるであろうか。ただし、ここで言う「キリスト教教育」は、関西学院の「伝道者の養成を目的とするキリスト教教育」ではなく、「クリスチャン学生、教職員の生涯教育と、ノンクリスチャン学生、教職員にキリスト教を知らせる教育」ということになろうか。学校では洗礼を授けることが目的ではないので、「知らせる」から「招く」までを役割としているのではないだろうか。このあたりには学内でも議論がありそうである。

本学はキリスト教主義によって建てられたものである。1875年、米国聖公会から派遣されたミス・エレン・G・エディーが大阪に学院の基を築いてからすでに120年になろうとしている。

1915年の高等部、1928年の専攻部を経て、1950年に短期大学が認可され、毎日のチャペルアワーなどにおいてキリスト教教育を行ってきた。また、教科においては「キリスト教概説」の必修などによりキリスト教主義教育に努めてきた。

日本におけるキリスト教主義教育も100年以上となり、また私学危機が心配される時期、本論文では、学生の側からの宗教意識、本学の宗教行事、キリスト教教育への意識、家庭における宗教教育などを調査、検討し、今後の参考としたい。

キリスト教教育は、幼児教育から高等教育、生涯教育まで考えられる。しかし、幼児、児童と違い、ある程度考え方の固まった大学生の場合、人生に影響を与えるようなキリスト教教育はなかなか困難である。キリスト教主義大学に学んでも、それは人生のひとつのエピソードとなるにすぎない場合が多い。ここではその教育困難な対象自身の意識と意見を考察したい。

なおこの調査はキリスト教科の2年生のみ、91年度、92年度の2学年にわたって調査したものである。回収した調査は126人分である。回答者の内キリスト教信者は3名であった。

キリスト教科では、日頃よりチャペルアワー、宗教週間などの諸行事への参加を奨励し、時には参加レポートを課題にしたりしており、全学のキリスト教行事を一番よく知り得る立場にいる学生たちである。そこで今回の調査はキリスト教科の学生のみとした。また、短大の全ての行事を知り得るという意味で調査は卒業間際とした。従って、卒業式と卒業礼拝については問うことができなかった。

〔調査内容〕

1、あなたは平安女学院短期大学在学中、どんな時に一番宗教的雰囲気を感じましたか？ ひとつだけ○をしてください。

- ①入学式・入学礼拝 ②新入生キャンプ ③毎日のチャペルアワー
④クリスマスカンタータ ⑤朝夕の学内音楽放送 ⑥宗教週間
⑦授業（ ） ⑧「キリスト教人間学」宿泊授業 ⑨成人祝福式
⑩その他（ ）

2、1で○をしたことについて、どんなことを感じましたか？

- ①良い感じがした。 ②悪い感じがした。

どんなふうに

3、あなたは教会に行ったことがありますか？

- ①はい ②いいえ
→ 幼稚園時代 小学校時代 中学校時代 高校時代 大学時代
→ 1回だけ、2・3回、しばらくの間、約____年間

それは ①友人に誘われて ②親に勧められて ③その他

4、平安女学院短期大学在学中に受けた宗教的な考え方は今後の人生に影響しそうですか？

- ①はい ②いいえ

どんなふうに

5、あなたは平安女学院短期大学入学までに宗教的教育を受けたことがありますか？

- ①はい ②いいえ

→ 幼稚園時代 小学校時代 中学校時代 高校時代

どのような？

6、あなたは家庭で宗教的教育、しつけを受けましたか？

- ①はい ②いいえ

どのような？

7、あなたは現代社会で大学生に宗教教育が必要だと思いますか？

- ①はい ②いいえ

どのような意味で？

8、もしあなたが結婚するなら結婚式を何式で行いたいですか。

- ①キリスト教式 ②神式 ③仏式 ④無宗教

なぜ？

9、あなたは自分の葬式を何式で行いたいですか。

- ①キリスト教式 ②神式 ③仏式 ④無宗教

なぜ？

10、その他キリスト教教育についてあなたの考えを教えてください。

〔学生の反応〕

1、あなたは平安女学院短期大学在学中、どんな時に一番宗教的雰囲気を感じましたか？ ひとつだけ○をしてください。

- ①入学式・入学礼拝 20人 15.9%

公立高等学校出身者にははじめてのキリスト教の雰囲気であり、印象に残っている。内12名は、厳か。清潔。新鮮。美しい。聖歌が美しい。などとして、①良い感じがした。と答えている。しかし3名は②悪い感じがした。としている。その内容は「とにかく別世界という感じ。誰のための式か？と感じた」「宗教に凝り固まった感じ」「自分の信じていないものへの礼拝を強制された感じ」である。別の5名は良い悪いではないが、初めての経験で驚いた。としている。内1名は、自分以外の人はみなクリスチャンのように思えて怖かった、としている。

- ②新入生キャンプ 6人 4.8%

本学では入学後1週間以内に各科別、専攻別に1泊2日の新入生キャン

プを行っている。93年度の場合は6ヶ所であった。各科毎に行き先や宿泊場所も違い、家政科では工場見学などもあり、雰囲気も随分違うものとなっている。キリスト教科の場合は、夜のキャンドルサービスなどもあり、他の科に比べると宗教的雰囲気は強いものとなっている。

6名の内3名は①良い感じがした。としている。1名は違和感があって②悪い感じがした。とし、他の2名は、良い悪いではないが、不思議な感じがした。としている。

③毎日のチャペルアワー 7人 5.6%

本学では平常授業期間は月曜日から金曜日まで、毎日昼休みに20分間のチャペルアワーを行っている。その他に週1回始業前に聖餐式があるが朝早いため、学生の参加は少なく、ほとんど教職員で行っている。

昼休みは50分間であり、その間の20分間ということでチャペルアワーも参加率は低い。しかしこの7名は、厳粛な感じ。キリスト教らしい。宗教的な考え方だけでなく、ためになる話も多い。心が落ち着く、心が洗われる。オルガン、聖歌、ステンドグラスが好き、落ち着ける。開始前の鐘の音がいい。などと②良い感じがした。としている。この項への回答者全員が、良い感じを持っているのは、この行事が強制参加でなく自由参加でありることにも意味があろう。また、7名ともキリスト教信者ではない。

④クリスマスカンタータ 71人 56.3%

本学では、毎年、学内で作詩、作曲をしたクリスマスカンタータを上演している。オーケストラ、合唱団、ハンドベル、無言劇、歌のソロなどと照明、音響などのスタッフを入れると総勢250人以上の大きな行事である。第1部はカンタータ、第2部はキャンドルサービスとなっており、学外の人たちにも公開されている。キリスト教科の学生は出演者も多く、当然印象深い行事となっている。キリスト教科の学生は出演、スタッフとし

て関わるか、あるいは参加し、感想文を「キリスト教音楽Ⅰ」「キリスト教音楽Ⅱ」の課題として提出することになっている。

この項目に○をした学生は、全員が①良い感じがした。としている。

内容としては、クリスマスらしい。感動した。心が洗われた。美しい。心が和む。クリスマスの意味を知ることができた。これからも続けてほしい。荘厳。神聖な感じ。キャンドルが灯った時感動した。みんなでひとつのものを作り上げた感動。などとなっている。また壇上でカンタータの手話通訳をした学生は、今までクリスマスというと遊びのパーティなどしていたがイエスの誕生を祝う意味が良く分かり、実感できた、としている。

入学式のところに○をし、悪い感じがしたとしている学生も、複数選択ならカンタータで良い感じに○をする。と枠外に記入している。

⑤朝夕の学内音楽放送 4人 3.2%

本学では始業時間前と最終授業後にキリスト教音楽の放送をしている。時期によって曲や歌は変えているが、だいたい静かな雰囲気のある聖歌やオルガン曲である。心がなごむ。朝早く来ると聖歌で気持ちが良い。など4名とも①良い感じ。としている。我々は学生たちが卒業後、困難な事態に出会った時に、クリスチャンにならなくても、聖歌を思い出して苦難を乗り越える一助にしてくれたら、と願っている。

⑥宗教週間 0人 0%

本学では毎年秋にキリスト教センター主催で宗教週間を行っている。学外からも講師を招き、昼休みに30分の講話を5日間行っている。場所はチャペルであるが、これは礼拝形式をとっておらず、むしろ講演に近く、宗教的雰囲気が少ない。この項目に○をした学生は一人もいなかった。

⑦授業 10人 7.9 %

宗教的雰囲気を感じた科目としては、全学共通の「キリスト教概論」キリスト教科専門科目の「旧約文書研究」「新約文書研究」「キリスト教人間学」「キリスト教音楽Ⅰ、Ⅱ」などをあげている。夏休みに「人間関係論実習」の課題として特別養護老人ホームへボランティア活動に行ったことをあげている学生もある。10人の内で、①良い感じがした。としている者は6名で、②悪い感じがした。は1名、3名は良い悪いではない。としている。

⑧「キリスト教人間学」学外宿泊授業 4人 3.2%

2年生科目、「キリスト教人間学」では、外来講師を招き、丹後半島にある、本学院のセミナーハウスで2泊3日の宿泊授業を行っている。授業内容は小グループ討論、グループ毎の意見発表など、特に宗教的とは言えないが、開会礼拝、朝夕の祈り、食前の祈り、キャンドルサービスなどのことを宗教的と感じている。良い感じ、悪い感じは半々となっている。

⑨成人祝福式 2人 1.6%

毎年1月15日前後に行っている。参加者は少ないが、参加した学生はチャプレンからひとりひとり手を置いて祝福されたことを印象に残している。

⑩その他 2人 1.6%

一人は、特定のことでなく全体の雰囲気だとしている。もう一人は門から入ったところにチャペルがあることが宗教的雰囲気を感じる。としている。

以上、問い1、では、クリスマスカンタータを一番宗教的雰囲気を感じたものとしてあげている学生が56.3%と最も多い。また他の行事では、悪い感じを

受けたとして、批判的な学生もいるがカンタータに関しては、悪い印象をもっている学生は全く居ない。

なお、これらの行事の他に1年に1度、学院関係の逝去者記念礼拝があるが学生はその年に家族の逝去者がなければ殆ど参加しないので省略した。

3、あなたは教会に行ったことがありますか？

①はい	102人	81.0%
②いいえ	24人	19.0%

		全回答者	
はい、と答えた学生のうち		102人中の%	126人中の%
幼稚園時代	12人	11.8%	9.5%
小学校時代	22人	21.6%	17.5%
中学校時代	9人	8.8%	7.1%
高等学校時代	28人	27.5%	22.2%
大学在学中	51人	50.0%	40.5%
回数、期間は			
1回だけ	31人	30.4%	24.6%
2・3回	26人	25.5%	20.6%
しばらく	21人	20.6%	16.7%
長期間	16人	15.7%	12.7%
1年間 3人	2年間 4人	3年間 4人	4年間 1人
7年間 1人	10年間 1人	20年間 2人	
回数不明	8人	7.8%	6.3%
きっかけ			
友人に誘われて	9人	8.8%	7.1%
親に勧められて	9人	8.8%	7.1%
その他	67人	65.7%	53.2%

不明 17人 16.7% 13.5%

その他の中には、誘われずに自分で行った。レポート課題のため、結婚式・葬式のため、などを含む。

高校、大学時代に1回～2・3回行ったことがある学生はレポート課題のためという学生が多い。高校時代という者が多いのは平安女学院高等学校などのキリスト教学校出身者が多いためである。

なおこの項目は複数回答可能なため総計は100%を越えている。

4、平安女学院短期大学在学中に受けた宗教的な考え方は今後の人生に影響しそうですか？

①はい	84人	66.7%
②いいえ	34人	27.0%
どちらとも言えない	8人	6.3%

①はい、と答えた者の記述では次のような回答がある。

- ・生命の尊さ、大切なものを学んだ。
- ・自分のまわりを大切にしようと思うようになった。
- ・優しさを学んだ。
- ・人生について考えるようになった。
- ・他人の立場を考えるようになった。
- ・人生に影響するほど大きなことではないが、将来、絶望的な状況になった時には思い出すだろう。
- ・明確な何かではないが、良い影響を受けた。
- ・自分の今まで気づかなかったことを考えるようになった。
- ・これからは積極的に生きていくことができそう。
- ・物事を多角的に見る練習になった。
- ・苦しいことに出会った時にきっと思い出す。
- ・人生を前向きに考えられるようになった。

- ・ 宗教信仰は好きではないが、考え方などは取り入れる。
- ・ 感謝の気持ちをもつようになった。
- ・ 高校までは宗教的な考え方を知らなかった。
- ・ 違う大学に行っていたら、宗教的な考え方を学べなかった。
- ・ 自分を大切にしたいと思うようになった。
- ・ おだやかになった。
- ・ 宗教を信じることはないが、他人を大切にしたい。
- ・ クリスマンになったわけではないが、たくさんの心に残る聖書の言葉などがある。

これらの中で、「他人や弱者のことも考えるようになり、少し優しくなったと思う」という回答が最も多い。

②いいえ、という回答者はほとんど記述回答をしていないが、

- ・ 善悪などの基本的考え方は高校までに自分の身についている。
 - ・ どの宗教でも倫理的には同じようなことを言っている。
だから、とくに短大で学んだことが人生に影響はしない。
- という記入があった。

5、あなたは平安女学院短期大学入学までに宗教的教育を受けたことがありますか。

①はい	82人	65.1%	
		82人中の%	126人中の%
保育所、幼稚園時代	19人	23.2%	15.1%
小学校時代	10人	12.2%	7.9%
中学校時代	14人	17.1%	11.1%
高校時代	57人	69.5%	45.2%

時代別項目は複数回答可能なため総計は 100%を越えている。

②いいえ 44人 34.9%

保育所、幼稚園が仏教系の者が4名、キリスト教系の者が4名いる。
仏教系私立高等学校出身者が2名いる。

6、あなたは家庭で宗教的教育、しつけを受けましたか？

- | | | |
|------|------|-------|
| ①はい | 9人 | 7.1% |
| ②いいえ | 116人 | 92.1% |

受けた者は祖父母から受けたという者が多く、核家族では牧師家庭などを除き、宗教的教育をほとんどしないということがうかがえる。

内容としては、お墓参り、法事、命日の食事会などがあげられている。

7、あなたは現代社会で大学生に宗教教育が必要だと思いますか？

- | | | |
|-----------|-----|-------|
| ①はい | 49人 | 38.9% |
| ②いいえ | 63人 | 50.0% |
| どちらとも言えない | 14人 | 7.9% |

この項目では、①はい、と答えた者も、②いいえ、と答えた者も、記述回答は似通っている。代表的意見をあげると次のようなものである。

- ・知識としては必要だが信仰の勧めではいけない。
- ・日本文化は宗教があふれ、混乱している。
- ・妙な宗教に惑わされないように知識が必要。
- ・国際社会に向けて、他国の宗教も学ぶ必要がある。
- ・心の教育は必要だと思うが強制はいけない。
- ・興味のある学生だけが学べるようにすればよい。
- ・自分には良かったが、誰にでもというわけではない。
- ・教養として知っておくことは良い。
- ・強制ではなく、学びたい人が学べるように。

いずれの記述もアンビバレントであり、必要は認めるが方法と内容に注文がある、という内容である。

8、もしあなたが結婚するなら結婚式は何式で行いたいですか。

①キリスト教式	76人	60.3%
②神式	10人	7.9%
③仏式	5人	4.0%
④無宗教	18人	14.3%
・なんでもいい	3人	2.4%
・今はわからない	19人	15.1%
・結婚しない	3人	2.4%

複数回答した学生がいるので総数を上まわっている。中には各宗教でいろいろなファッションの式をやりたいと複数回答した学生もいる。

①キリスト教式に回答した者は、ごく少数のクリスチャンを除くと、明るい、清潔、きれい、聖歌がいい、華やかでいい、ウェディングドレスを着たい、昔からの夢、などというファッション性の回答が多い。その他に安いから、大勢参加できるから、教会で誓い合えば別れ難いから、という者もいる。また、宗教的な感じがしないからキリスト教式がいい、という学生もいて考えさせられる。

キリスト教主義高等学校出身者は母校のチャペルで結婚式をしたいという者が圧倒的に多い。短大のチャペルでという者はひとりもない。本学のチャペルが新しいためか、心のつながりは高校にあるのか。

②神式では、三三九度にあこがれる。日本の心を買きたい。などという者がいる。

④無宗教に回答した者には、籍だけ入れて、あとはパーティでいい。という考えを持っている者もあるが、ドレスもうちかけも着たいなどという者もいる。

記入なしの学生の中に、結婚相手にもよるので自分で決められない。両家の相談によって何式でもいい。などという回答もある。教会で式をしたいが、信者でもないのにその時だけ信者風にするのはおかしい。と無答の

者もいる。

9、あなたは自分の葬式を何式で行いたいですか？

①キリスト教式	17人	13.5%
②神式	2人	1.6%
③仏式	70人	55.6%
④無宗教	12人	9.5%
・その他	21人	16.7%
・葬式不要	1人	0.8%

キリスト教式を選んだ理由としては、明るい。美しい。故人の紹介がある。聖歌・賛美歌が好き。聖歌の流れる明るい最後にしたい。などがあげられている。中にはキリスト教式が希望だが、実際にはそうはされないだろう。という者もいる。

仏式を選んだ理由としては、家がそうだから。結婚相手もたぶん仏教だろう。仏式しか見たことがない。落ちつく。日本人だから。本家がお寺。自分の意思ではなく仏式になるだろう。人は仏にかえる。ふつうがいい。キリスト教の葬式は派手。などという答がある。またキリスト教の土葬は嫌だという、誤解に基づく答えも数名あった。これは外国映画からの印象のようである。

無宗教を選んだ学生の中には、死ぬ時はひとりの力で死にたい。まだ自分の宗教を見つけていない、死ぬまでに見つけたい。という者がいる。

その他の中に、自分で決められない。死んだ後はどうでもいい。残った者が考えること。風葬・鳥葬で自然に帰りたい。などがある。

10、その他、キリスト教教育についてあなたの考えを教えてください。

この項目では、必要だが強制はしてほしくない、という意見が圧倒的に多い。

- 興味を持っている人には教育をしてもいいが、悩んだ時に読み返す本のようなアドバイスの的なもので良い。もっと知りたい学生にのみ選択科目のようにしたらいい。自分はクリスチャンなので、キリスト教の良さをわかってほしい気持ちはあるが。
- 私は宗教自体に興味はない。今後も無宗教だと思うが、聖書とふれることによって考えることも大きかったのも、押しつけでない教育ならいいのではないか。
- キリスト教は他の宗教に比べて押しつけがましくない。相手の気持ちを大切にするような点が好きです。
- 各宗教がどんなものか、ということは知っている方が良い。
- 自分はクリスチャンでないので、はじめは変な感じがした。しかし聖書にはうなずけることもあり、いいと思う。
- チャペルのお話は心が洗われて良いと思う。
- 強制するのではなく平安の授業のように色々なことを関連させて勉強するのが良いと思う。
- キリスト教の行事は心に残るものが多く、学生時代の良い思い出になります。キリスト教教育は残してほしいと思う。
- こういう考え方もある、という程度で教育をしていけば良い。
- この大学に入ってから始めてキリスト教にふれて、最初はすごくとまどった。聖書の話もキリストの言葉も、何が何だか分からないし、とても困りました。でも理解しようとするのが間違いだと思うようになり、聖書の話も素直に感じる事が大切なのではないか。難しく考えすぎるよりも日常のほんの一場面でもキリスト教に通じるものはあるのではないかと思う。
- どの宗教も自分を見つめるのに必要。
- 聖書の中には、役にたつことが多い。キリスト教教育を受けたことによってキリスト教のイメージも変わり、考え方にも影響を受けた。自

分にとっては良かったと思う。

- 外部からは批判的に見る人もいるかもしれないが、私は、高校、大学とキリスト教に触れて、体験してみなければ分からないことを感じる事ができた。偏った宗教的なものとして見ずに、人間的に学び、成長できたことを感謝している。
- 聖書は短大ではじめて読んだが、結構面白かった。しかしキリスト教教育という言葉で見るといかにも宗教的な感じを受ける。
- 中学からキリスト教教育を受けて、いろいろ心の勉強ができて良かったと思う。しかしキリスト教といっても変わった宗教もあって、誤解されて嫌がられる時もある。
- キリスト教といっても多方面すぎてよく分からなくなってきた。
- 新約時代史とか、知っておいても損にはならない知識もある。
- 精神的なもの、考え方など取り入れたらいいものもある。
- 聖歌は美しい旋律で、とても感じがいいです。たくさん聖歌を知っていたらいいと思う。
- キリスト教教育は必ずしも必要だとは思わないが受けてマイナスにはならない。
- この2年間、この先絶対学ぶことのできない貴重なことを学んだ。
- 家は無宗教なので、短大ではじめて宗教に触れ、今後の人生に影響すると思う。
- この2年間で他の科の学生のように手に職をつけていないが、心の教育を受けることができてよかった。
- 「何科？」と聞かれて「キリスト教科」と答えた時、どうしても宗教を信仰している、洗礼を受けているというイメージを持たれる。しかし、内部ではむしろ心の勉強ができたと思う。
- 人にたいする優しさなどを学ぶぶんには必要なところがある。
- 外国の文化や情報も学び国際的な感覚を養えるという点で良い。

- 聖書は、神は善、他は悪、と単純なので信じこむと怖い。
- 宗教は気味悪い。しかしこの学園で学んだことはいいと思う。
- 私はクリスチャンではないが、この学校で学んで良かった。
- 子どものうちから仏教とかキリスト教とか教えてのめり込ませるより大きくなってから宗教教育をした方がいい。自分で良いと思う所は吸収し、合わない所は吸収しないように選べる。
- キリスト教から道徳を学び、人生観が変わった。現代社会には宗教が氾濫しているが、自分の考えを持って、むやみに宗教に走らないようになってほしい。
- 人間の基本的な生き方を学んだ。
- キリスト教にあまり良い印象はなかったが、2年間学んで、キリスト教的な考え方はけっこう世の中に広がっていると思った。隣人を愛せよとか、良いこともたくさん言っているような気がする。
- キリスト教信者の人にはキリスト教教育の意味があるだろう。
- キリスト教信者にとっては、知識を深めるということでもいいかもしれないが、キリスト教を押しつけるのは良くないことだ。
- とくにキリスト教を学びたいと思ったことはない。
- キリスト教を押しつけたり、無理に理解させようとすると、キリスト教から離れてしまうようになる。キリスト教について少しでも理解しましょう、という形なら、なじみやすい。
- 教育という形で強制するのは間違い。キリスト教について説明する程度でいい。
- もっとキリスト教の悪い面、悪い影響もとりあげて、まるごとのキリスト教というものを教育したらいい。
- 短大で学んだことは頭では受けとめているが、心では受けとめきれない。
- 自分の考えを押しつける先生がいる。反対の意見を言おうものならす

ごいけんまくで怒られたことがある。自分は自分、学生は学生という意識を持ってほしい。キリスト教に限らないが宗教を持っている人は仲間意識が強く、みんな同じ考えでなければならないと思っているのではないか。同じ宗教をもっていても同じではないということもっと理解してほしい。

- いやがっている学生がいる。宗教は嫌いという人や、どうせ家は仏教なのに、という人も多い。
- 強制するものではないが、教えられたり、気づくことがあればそれだけを取り入れればいい。
- 聖書を丸ごと信じるのではなく、科学的に、現代風に考えていく姿勢をもって、ひとつの哲学書として聖書を見る必要がある。
- キリスト教が絶対とは思わないが、私にとって大切なもののひとつとなった。
- 習ったことは身になっているだろう。しかしキリスト教を人に押しつけたりして偏るのはよくない。
- いくら教育されても、自分に関心の無い人には意味を持たない。
- 多くの大学生は宗教に関心がない。
- 宗教は教育されるものではない。
- ボランティア活動など、他の学校では経験できないことを学んだ。
- 小さい時から強制するのは良くない。大学生なら仏教もキリスト教もいろいろ学んで自分で選べばいい。

〔まとめ〕

キリスト教学校では、教職員はキリスト教教育を良いものとしてとらえている。伝道はしないが、せめてキリスト教の良いところを知ってほしいと願っている。しかし、それは教職員の願いであって、学生たちはどう考えているのだろうか。それがこの調査のきっかけである。時はちょうど大学・短期大学設置

基準の改定により、カリキュラム改革が必要とされる時でもある。

まず、問1では入学式から違和感を持っている学生がいることにこちらが驚く。「誰のための式か?」「宗教に凝り固まった感じ」「自分の信じていないものへの礼拝を強制された感じ」「自分意外の人はみなクリスチャンのように思えて怖かった」などという学生がいることはキリスト教の世界を当然のこととと思っている教職員には考えられないことではないだろうか。入学式・入学礼拝、新入生キャンプ、宿泊授業などは強制参加であり、その中に少数でもこのような学生がいることは教職員の意識に止める必要がある。

朝夕の聖歌放送、チャペルがあることなどは雰囲気の問題であり、このようなものへの抵抗はない。またチャペルアワーなどは自由参加であり、自分の意思で参加する学生は、もちろんプラスのイメージを持っている。

一方、クリスマスカンタータの行事には56%の学生が一番強い印象を持っており、全員が良い感じを持っている。行事として大きいこと、舞台がよく練り上げられていることもあるが、準備の段階から多くの学生が関わっていて、自分たちで造り上げた舞台という意識があり、上からの押しつけではないと感じていることもその要素となっている。また、礼拝というより音楽劇の様相が多く、祈りや説教など直接宗教的なものが少ないことも影響していると考えられる。

問3では、教会に行ったことがあるという学生が81%もある。これはキリスト教科の学生の特徴でもあろう。しかし現在、教会に通っている学生が殆どいないことも考えなければならない。教会参加はひとつの経験であり、生活にはならないのである。また、教会に通っている学生も殆どは父母の影響をうけて通っており、家族に反対してでも自発的に通っている学生はいない。

問4では、在学中にうけた宗教的な考え方が、66.7%の学生に影響があり、「他人や弱者のことも考えるようになり、少し優しくなれた」に代表されるポジティブイメージがある。しかし、問7では大学生に宗教教育が必要がないと50%が答えており、問10のキリスト教教育についても否定的な意見がかなりあ

る。この違いは問に使われた言葉の違いも影響しているかと考えられる。すなわち、「宗教的な考え方」には抵抗が少ないが、「宗教教育」や「キリスト教教育」になると抵抗があり、「私たちはそんな教育を受けたのかしら」という疑問になるように考えられる。

問6では、家庭では92%の学生が宗教的教育、しつけを受けていないと回答している。受けた者には祖父母の影響があり、今日の核家族では、殆ど家の中に宗教色がない、と考えられる。正月の出来合いおせち料理の購入などと考え合わせると、家庭における文化の継承が途切れつつあることが考えられる。心の教育もまた学校で行わなければならないのであろうか。

問7では、大学生に宗教教育が必要だと答えた者も不必要だと答えた者も記述回答ではアンビバレントであり、宗教に関する知識は必要だが、信仰の強制になってはいけない。という点で一致している。「国際社会に向けて、他国の宗教も学ぶ必要がある」という意見もあり、キリスト教教育は西洋人との交流のために必要と考えられている面もある。調査学年は在学中に湾岸戦争のあった学年でもあり、イスラムのことも含んでいる。

問8、問9、結婚式とお葬式の項では、よく言われる日本文化の雑多性と若者のファッション性が現れている。これらの回答の中に、自分では決められない。両家の相談によって決まる。などという回答がある。事実上そうになってしまうことが多いのだが、今までの教育は何だったのかと考えさせられる。何式が良いということではなくて、自分で選んでほしい。このような人生の大事を自分で選択できる主体性をもって生きてほしいと願うものである。その意味では、結婚式不要、葬式不要、死ぬ時には一人の力で死にたい、風葬・鳥葬で自然に帰る、などという回答には主体性があると言えようが、みんながこう考えることが主体性の教育ではない。

キリスト教は土葬だという誤解をしている学生がいる。キリスト教のお葬式や納骨式に参列した経験がないのだと言えばそうだが、では神式の葬式や納骨式に参列した経験があるのかと言えば、それも殆ど無いと言えよう。問6の家

庭における宗教教育の状態と合わせて、生まれてから死ぬまでの一生にわたる各宗教のしきたりなども授業で扱う必要が生じているのかもしれない。家庭でしつけができないから、しつけは学校でということが大学にまで延長されるのであろうか。

問10では、「キリスト教教育」ということを、キリスト教科のカリキュラムと混同しているのではないかと思われる点がある。いずれにしろ、キリスト教教育にはかなりの抵抗が見られる。調査全体が記名なのにこれだけの抵抗が表明されていることから、無記名であればもっと本音が聞けたかもしれないと思う程である。微妙なことだが、「キリスト教主義教育」について問えばまた違った結果になるかもしれない。

学生たちは、宗教についての情報は求めているが、その情報を採用するか否かは自分たちにある、押しつけはしないでほしい、と言っているのではないだろうか。そうすると教職員の側も、何を提供するのか、できるのか、ということを考える必要がある。クリスマスカンタータの行事への抵抗はなく、過半数がポジティブにとらえているところから、このような取り組みをさらに深め、広めることも考えられる。また、情報提供あるいは授業の内容として、キリスト教関係のものだけではなく、仏教各派や神道、イスラム、ヒンズーなどについても解説が求められていると考えられる。比較宗教学の中には風俗・習慣・文化、さらには他宗教の人との交際の留意点までも含めた教育も求められているのではないだろうか。学生たちにとっては自分の人生に関わるものとしての宗教のみならず、今後の国際化時代に生きる智慧としての教育も大切なのであろう。今、新短大設置基準にそったカリキュラム改定の時期にあたり、キリスト教科では「アジアの言語と文化」「ヨーロッパの言語と文化」という新設科目を考えているが、これは学生のニーズに合うもののひとつであろう。

仲原（1992）は、①関西学院中学部1年生の「生徒個別調査」をはじめとして、②キリスト教主義の中高一貫教育の学校での調査、③大学生の出身高校別調査、④関西学院高等部での調査、⑤大学3年生に対する出身中学・高校別調

査、⑥中高一貫教育の中学生・高校生の調査、の6種類の調査を概観し、調査結果に基づいて、「キリスト教主義教育とは、キリスト教主義学校の目標であり、そのための制度や組織を必要とすることは言うまでもない。しかも大切なことは、それを担う教職員のすべてがよきクリスチャニティーの持主として、その教育に当たることが要求される。しかも最も大切なことは校内の人間関係に集約されよう。対生徒とのよき関係が、生徒対生徒の関係を好ましいものとし、そこに展開する心の通い合いが豊かな情操をはぐくむ。それが更にキリスト教や聖書の知的理解をもとりこみつつ、宗教的情操にまで発展する時、学校におけるキリスト教への教育は完成へ近づくことができる」と纏めている。⁵⁾

いかにキリスト教教育の理想をかかげ、いかにヒューマニスティックなキリスト教主義教育をかかげても、個々の教職員と学生の間には暖かい人間関係がなければキリスト教教育はなされない。学生の否定的な意見を参考にしつつ、今後の教育を考えたい。

柳原(1980)は、教会の幼稚園で、子どもがきれいな花を持ってきて「この花きれいね、なぜこんなにきれいなもの？」というのに「それは神様がおつくりになったんですもの」というきまり文句を持っているだけでは「非教育的」とあり、この紋切り型では、子どもにとっては、わからないもの、これ以上質問できないものは、神さまだということをお教えていることにしかならない。としている。⁶⁾

松平(1980)は、「それは神さまのみわざですよ」という形で、人間の問題がスッとどこかに消えてしまう、あるいは消してしまうというような一種の訓練を宗教教育という名のもとにして来たのではないかということにたいする疑問を投げ掛けている。⁶⁾ よく注意をしないと、大学生を対象にすら、このような教育をしていることがあるのではないだろうか。それが学生のアレルギー反応を引き起こしている、とも考えられる。今後の課題としたい。

この調査をもとに、さらにカリキュラムや行事内容を考える必要がある。また、キリスト教科だけではなく全科の学生や卒業生を対象にした調査も必要と

考えられる。

文 献

- 1) 小寺武四郎 1992 「キリスト教教育とキリスト教主義教育」キリスト教主義教育 関西学院キリスト教主義教育研究室年報 No.21 4-5
- 2) 仲原晶子 1992 「キリスト教主義教育の教育社会学的位置(2)」キリスト教主義教育 関西学院キリスト教主義教育研究室年報 No.21 189
- 3) 松村克己 1958 「宗教と教育」神学研究第7号 関西学院大学神学研究会 381. 397-398
- 4) 西垣二一 1992 「学校礼拝の心理学的考察」キリスト教主義教育 関西学院キリスト教主義教育研究室年報 No.21 26-27
- 5) 仲原晶子 1992 「キリスト教主義教育の教育社会学的位置(2)」キリスト教主義教育 関西学院キリスト教主義教育研究室年報 No.21 198
- 6) 柳原 光 松平信久他 1980 座談会「キリスト教教育をめぐって」キリスト教学第22号 立教大学キリスト教学会 31